

# 学級活動学習指導案

日時 平成30年10月26日(金)  
場所 盛岡市立大宮中学校 2年1組教室  
対象 2年1組  
(男子17名 女子15名 計32名)  
授業者 教諭 北條直人

1 題材名 「よりよい人間関係を築く」

2 教材について

(1) 教材観

中学校特別活動の目標は、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いの良さや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり三つの資質・能力を育成することを目指す」としている。一つ目は、多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付ける。二つ目は、集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。三つ目は、自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養うである。

特別活動の目標である、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いの良さや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決するために、9月の職場体験学習では、生徒たちは60の事業所に分かれ、実際に仕事を体験し、社会人・職業人として自立するために必要なことを学んできた。

本教材では、自己評価と企業評価を比較分析し、なぜ、A評価をもらえなかったのか、その理由を普段の生活から考える。人間関係をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、普段の生活から自分自身が心がけたいことを意思決定させる。将来子どもたちが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことを目指したいわてのキャリア教育における総合生活力の育成を中心にすえ、主体性、コミュニケーション能力を育成する契機としたい。

(2) 生徒の実態

生徒たちは、2日間の職場体験学習を通して、仕事を実際に体験し、仕事のやりがいや苦勞、多様な人間関係の築き方を学んできた。また、職業人へのインタビューを通して、働くことについて学習すると共に、新たな視野を取り入れ、これからのよりよい生き方について考えた。事後学習である学級発表会では、作成したポートフォリオを見せながら、自分が体験してきたことを発表した。声量や話すスピード、目線や姿勢等を意識して堂々と発表できる生徒もいたが、緊張して前を見て発表することができない生徒もいた。また、自分が体験していない職業についても仲間の発表から学ぶことができた。発表会を通して、次に何かの発表会がある時に自己の課題を克服したいという生徒が多かった。

学級活動の話し合い活動では、自分の考えを持ち、仲間の考えを聴くことで考えを修正し、自己の力に変えることができる生徒もいる。一方で、周りの状況を見て受け身になるなど主体的に学習に臨めない生徒もいる。グループ討議では、広がりを持たせながら主体的に学習に臨めるようにし、社会人・職業人としての自立を目指して指導する。

(3) 指導観とキャリア教育との関わり

① 指導観

予測が困難な変化の激しい時代であり、また、IT革命によりインターネットが急速に普及し、AIの時代が到来する。だからこそ、顔を合わせたコミュニケーションの必要性を感じる。働く人の姿から、より良い人間関係を築くために必要なスキルを学ぶと共にコミュニケーション能力を高め、将来の自分の生き方や進路についての意識を高めることが大切である。学校教育指針で岩手の義務教育が目指すも

のに「社会に適応する能力」がある。グローバル化など変化する社会の中で、自立した社会人として生きていく力を育むため、主体性やコミュニケーション能力等の生活基礎力を身につけさせ、社会人・職業人としての自立を図り必要性が感じられる学習にする。また、変化の激しい社会にあって、個々の生徒が将来における職業生活に備え、学校で学ぶことと社会との接続を意識した社会的・職業的な自立に向けた資質・能力の育成と自己実現を図る学習にする。そのために、「いわての授業づくりの3つの視点」を生かした授業を展開する。

## ② キャリア教育との関わり

今、子どもたちが「生きる力」を身に付け社会の激しい変化に流されることなく様々な課題に柔軟かつたくましく対応していく力と態度を育てることが不可欠である。本校の研究主題は、「自ら考えて判断し、行動できる生徒の育成 ～人とのつながりを深め、自己肯定感を高める活動を通して～」である。

キャリア教育の最大の目的は、子どもたちのより良い未来である。学んだことを人生や社会での在り方と結び付けて深く理解したり、これからの時代に求められる資質・能力を意識して身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができるようになることが重要である。

今回の題材で扱う具体の要素の「主体性とコミュニケーション能力」を特別活動としては以下のように捉えている。

特別活動で求める「主体的な行動ができる理想の生徒像」は、生徒が過程（プロセス）を大切にして活動し続けること。より良い生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てることである。

職場体験活動の自己評価と企業評価の比較から、なぜ、A評価をもらえなかったのか、その理由について、グループ討議を通じて普段の生活から考えさせる。最終的に生徒一人一人に変化の激しい時代を生き抜く力をつけさせるために、普段の学校生活から自分自身が心がけたいことを意思決定させ、将来の生活における自己決定・自己実現できる生徒を育てていきたい。社会人として自立していくことができる教育が強く求められている今、キャリア教育の視点に立ち、子どもたちの「生きる力」を身に付けることを重点として研究を続けたい。

## 3 評価の基準と本実践における評価基準

### 「適応と成長」の評価基準

<p>集団活動の意義や活動上の必要事項の理解と行動</p> <p>(知識及び技能)</p>	<p>生活や人間関係の課題の発見と解決のための話し合い、合意形成の意思決定</p> <p>(思考力・判断力・表現力等)</p>	<p>人間関係等のよりよい形成、生き方の深化と自己表現を図ろうとする態度</p> <p>(学びに向かう力、人間性等)</p>
<p>自己評価と企業評価を比較しながら集団や社会への適応及び社会人・職業人として自立するために必要な主体性・コミュニケーション能力等の自他の成長などについて理解している。</p>	<p>自己評価や企業評価を比較することで自己の課題を見だし、社会人・職業人として自立するために必要な主体性・コミュニケーション能力等の重要性や大切さを考えている。</p>	<p>企業評価から社会人・職業人として自立するために必要な主体性・コミュニケーション能力等に関心を持ち、自主的、自律的に日常生活を送ろうとしている。</p>

### 「学業と進路」の評価基準

<p>集団活動の意義や活動上の必要事項の理解と行動</p> <p>(知識及び技能)</p>	<p>生活や人間関係の課題の発見と解決のための話し合い、合意形成の意思決定</p> <p>(思考力・判断力・表現力等)</p>	<p>人間関係等のよりよい形成、生き方の深化と自己表現を図ろうとする態度</p> <p>(学びに向かう力、人間性等)</p>
<p>学ぶことと働くことの意義や自己の能力や適性、進路選択に必要な情報収集や将来の設計の仕方などについて理解している。</p>	<p>自己の将来に希望を抱き、その実現に向け、現在の生活や学習を振り返り、これからの自己の生き方等について考え、実践している。</p>	<p>人間として生き方や学ぶこと、働くことなどに関心を持ち、自己の良さを伸ばしながら、自主的、自律的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。</p>

4 指導計画と評価基準

時数	指導計画	活動内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と 評価の方法
1	なぜ、人は働くの のだろう  職業について考 えよう	なぜ、人は働 くのか。  職業について 考える。	将来、社会の一員として 生きるために働くことの 意義や生きがい、自己の 生き方について考える。 また、一日の生活と職業 との関わりを考える。	【知識及び技能】 働くことの意義や様々な職業 を理解し、社会人・職業人とし ての自立に向け、主体的に考え ている。
2	進路適性調査 (進路コンパ ス)の実施	進路適性調査 の実施  自分の適性に ついて考える。	進路適性調査(進路コン パス)の実施と「中学生 生活と進路」を活用して、 適性と職業について考える。 他者から適性を教えて もらい、自己の意外な 一面に気づく。	【思考力・判断力・表現力等】 現在及び将来に向けた自己実 現のために、自分の適性と職業 について考えている。
3	いろいろな職業 について調べて みよう  体験したい職場 を発見しよう	いろいろな職 業について調 べる。  体験したい職 場を発見す る。	進路コンパスを活用し て、気になる職業のフロ ーチャートを書き写させ る。また、「中学生生活と進 路」を活用して、体験し たい職場を発見しようと 取り組み、興味のある仕 事やチャレンジしたい仕 事を考えさせ、自分を生 かす職業について考える。	【学びに向かう力・人間性等】 様々な職業に興味関心を持ち、 学習活動に意欲的に取り組も うとしている。
4	計画書を作成 し、質問事項を 考えよう	計画書の作成 と質問事項を 考える。	訪問先の住所、連絡先、 行動日程等、グループで 確認し、仕事の楽しさや 喜びやりがい、苦労等 について実際に働く人への 質問を考える。	【知識及び技能】 仲間と協力して意欲的に計画 書を作成するとともに、実際に 働く人への質問を考えている。
5	職場体験学習	職場体験を通 して働く人の 思いに触れ て、自分の職 業観・勤労観 を高める。	あいさつやマナー、積極 的に人と関わろうとする 態度等、意欲的に課題を 解決する力を身につけさ せる。	【思考力・判断力・表現力等】 人間関係をよりよく構築して いくために、多様な場面で、自 分と異なる考えや立場にある 多様な他者を尊重し、認め合 いながら、支え合ったり補い合 ったりして協働している。
6	ポートフォリオ にまとめ、将来 の自分の進路決 定に向けて考え よう	まとめ作業	ポートフォリオに適切に まとめる力を身につけさ せ、自己の将来の進路選 択に生かすと共に、将来 への希望を持たせる。	【思考力・判断力・表現力等】 実践したことを振り返って課 題解決に向かおうとしている。 【学びに向かう力・人間性等】 日常の生活や自己の在り方を 主体的に改善しようとした り、将来を思い描き、自分に ふさわしい生き方や職業を考 えている。

7	職場体験で学んだことを他の人にわかりやすく伝えよう	学級発表会	発表者の姿勢や態度等を十分に指導した上で、職場体験学習の学びがはっきりと伝わるように他の人にわかりやすく伝える力を身につけさせる。	【学びに向かう力・人間性等】 職場体験学習を通して身につけたことを生かして、学級で堂々と発表している。
8 【本時】	より良い人間関係を築くために必要なことを見つけよう	より良い人間関係を築くために必要なことを考える。	より良い人間関係を築くために必要なヒントを得て、毎日の学校生活、将来への進路学習に生かす。	指導案に記載

## 5 本時について

### (1) 本時の目標

本時においては、職場体験学習の企業評価と自己評価をもとに、コミュニケーションスキルについて再考することで社会人・職業人として自立するために必要なことを考えさせる。

### (2) 授業の構想

この単元の目標は、職場体験学習の自己評価と企業評価の比較分析から、社会人・職業人として自立するために必要な主体性・コミュニケーション能力等のコミュニケーションスキル、より良い人間関係を築くために必要なことを普段の学校生活で身につけていくことに気付くことである。

本時では、導入で職場体験学習の自己評価の集計と企業側の良い（肯定的）な感想を知ることで職場体験学習の振り返りをした後に肯定的な感想だけではなかったことを紹介する。

展開では、本時の課題である「より良い人間関係を築くために必要なことを見つけよう」を設定し、コミュニケーションスキルの説明をして学習の見通しを持たせる。コミュニケーションスキルを高めるための6観点を提示し、班毎に1つの観点を選択させ、企業評価の集計と自己評価との比較分析を行い、自己評価と比べて気付いたことを発表する。班毎の発表を聴いた後、なぜA評価をもらえなかったのか、その理由を普段の生活から考えさせて発表する。その後、企業のアンケート結果から社会人として自立するために足りないものを紹介する。

終末では、足りないものは、将来のために今の学校生活で改善できるということに気づき、今後どのようなことを心がけて生活していくかを考え、その決意を発表させることで、「より良い人間関係を築くために必要なこと」に気付かせたい。

### (3) キャリア教育との関わり

具体の要素【主体性・コミュニケーション能力】

「主体性・コミュニケーション能力」を育むために、次の三つの手立てを考え、実践する。

#### ① 内発的な動機付けとなる課題設定

生徒が主体的に課題に取り組むためには、本時の学習が自分の日常生活や実社会と主体的に結びつける動機が大切になる。そのため本時の授業では、自己評価の集計表や企業の感想から自己肯定感を高めた後に、企業のアンケート結果から学習課題を発見する。一人一人が課題の原因や解決しなければならない理由、背景等を探り学習課題への意欲を高めたい。

#### ② 思考（内化・外化）時間の保障と交流

「より良い人間関係を築くために必要なことが何か」を理解し、日常生活で実践していくためには、課題を自分のものとして捉える必要がある。企業評価の集計や自己評価との比較分析の学習活動を通じて、主体的に学習に臨むことで思考の内化と外化の連続が生まれる。なぜ、A評価をもらえなかったのか、その理由をグループ毎に考えさせる。

③ 振り返りの設定

授業・学習活動において、生徒一人一人が課題を解決するために主体的に話し合い、企業評価と自己評価を比較分析したことを客観的に自分のこととして考える。話し合いを生かして自己の具体的な実践課題を意思決定し、粘り強く努力し、更なる課題の解決に取り組もうとする意欲を高めた。

(4) 評価基準

観点	おおむね満足できる	基準に達しない生徒への具体的支援
学びに向かう力・人間性等	より良い人間関係を築くために必要なことを見つけるための話し合いに意欲的に関わり、多様な視点から解決方法を考え、今後の中学校生活をどのように送っていくかということを深く考えている。	自分の考えと他者の考えを比較するなど積極的に関わらせることで、日常生活から心がけたいことを考えている。
思考力・判断力・表現力等	より良い人間関係を築くために、自分と異なる考えや立場にある多様な他者を尊重し、認め合いながら、実践課題を意思決定し、それを表現している。	より良い人間関係を築くために必要なことで日常生活から心がけたいことを考えている。

(5) 本時の展開

過程	キャリア教育の視点・学習活動	生徒の活動	指導上の留意点 ○評価
<p>導入 (10)</p>	<p>1 社会と教室との接点</p> <p>内発的動機付け (問題の発見・確認)</p> <p>2 学習課題の設定</p>	<p>1 自分の職場体験学習を振り返る。</p> <p>自己評価と企業評価の比較表を見て、自己評価を振り返る。 アンケート結果から肯定的な感想だけではなかったことを知る。</p>	<p>自作のポートフォリオを見て学習内容を想起させる。</p> <p>職場体験学習の企業のアンケート結果から肯定的な感想を知る。</p>
<p><b>【本時の課題】</b></p> <p><b>より良い人間関係を築くために必要なことを見つけよう</b></p>			
<p>展開 (30)</p>	<p>3 学習の見通し (活動内容の確認)</p> <p>4 内化～外化 (グループ活動) (企業評価の集計と分析)</p> <p>5 内化～外化 (グループ討議)</p> <p>6 内化</p>	<p>3 学習の見通しを持つ。</p> <p>4 自己評価の集計を見て、6観点から班ごとに1つの観点を選ぶ。 企業評価の集計をし、自己評価と比較、分析する。</p> <p>5 なぜ、B～Dなのか、日常生活から原因を考える。</p> <p>6 企業のアンケート結果から社会人として自立するために足りないものを知る。</p>	<p>コミュニケーションスキルを高めるための授業であることを説明する。</p> <p>自己評価と比べてどうかを含んで発表させる。</p> <p>なぜ、Aをもらえなかったのかを各班で考え、普段の生活から予想されることを発表させる。 <b>【コミュニケーション能力】</b> B～Dの原因を考え黒板に掲示させる。</p> <p>実際に何が足りないのかを紹介する。</p>
<p>終末 (10)</p>	<p>7 内化～外化 (振り返り)</p>	<p>7 普段の学校生活で心がけていきたいことを考える。</p>	<p>○ 普段の生活で心がけたいことを意思決定し表現することができたか。</p> <p>○ より良い人間関係を築くために必要なことを考えることができたか。</p>